

NPO 静岡情報産業協会
人材育成教育研修部会 主催

令和5年度 国内視察報告書集

～社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点を視察～



1. 日 程

(1) 11月 21日(火)

- ① 16:00 ~ 「QUINT BRIDGE」にて意見交換会
- ② 17:30 ~ 懇親会

(2) 11/22(水)

- ① 09:30 ~ 10:45 「QUINT BRIDGE」にてワーケーション体験(前泊者のみ)
- ② 11:00 ~ 12:30 「QUINT BRIDGE」視察
- ③ 14:00 ~ 15:30 「LINKS PARK」視察

2. 訪問施設

■ QUINTBRIDGE (大阪市京橋) <https://www.quintbridge.jp/>

NTT 西日本が運営するオープンイノベーション施設。NTT 西日本の本社

■ LINKSPARK (大阪市梅田) <https://linkspark.jp/>

NTT 西日本が新たなビジネスを実現していく共創空間

企業や自治体が抱える課題を解決し、DX の推進を支援する中核拠点

3. 参加者 (8名)

① 二日間参加

花澤真平(人材育成部会長)、瀬戸伸亮(理事)、米良直樹(理事・人材育成部会)
筒井将光(人材育成部会)、小林博典(人材開拓副部会長)、桜井俊秀(事務局)

② 二日目のみ参加

鈴木裕(副理事長)、中村建太((一財)静岡経済研究所研究員)

CONTENTS

1. 報告
 - 人材育成教育研修部会 部会長 花澤 真平
 - SIIA 副理事長 鈴木 裕
 - SIIA 理 事 米良 直樹
 - 人材育成教育研修部会 筒井 將光
 - 人材開拓部会 副部会長 小林 博典
2. 隨行員報告
 - (一財)静岡経済研究所 研究員 中村 建太
3. 「国内視察」所見
 - 西日本電信電話株式会社静岡支店 営業部長 (SIIA 理事) 濑戸 伸亮



報 告 書

記録日 2023年11月27日

内 容	NPO 法人 静岡情報産業協会主催 国内視察
目 的	国内オープンイノベーション・事業共創推進拠点の視察 情報産業協会会員企業との視察を通じた交流
日 時	2023年11月21日～2023年11月22日
場 所	QUINTBRIDGE（大阪市京橋） LINKSPARK（大阪市梅田）
訪問者	株式会社SBS情報システム 花澤 真平
内 容	<p>NPO 法人静岡情報産業協会主催「社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点を視察」に参加させていただきました。</p> <p>視察内容を以下に報告させていただきます。</p> <p>1. 観察先</p> <ul style="list-style-type: none">(1) QUINTBRIDGE（大阪市京橋） https://www.quintbridge.jp/ NTT西日本が運営するオープンイノベーション施設。NTT西日本の本社。(2) LINKSPARK（大阪市梅田） https://linkspark.jp/ NTT西日本が新たなビジネスを実現していく共創空間。 企業や自治体が抱える課題を解決し、DXの推進を支援する中核拠点。 <p>2. 日程</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 11月21日（火）<ul style="list-style-type: none">① 16:00～「QUINT BRIDGE」にて、自己紹介、意見・情報交換会② 17:30～懇親会(2) 11/22(水)<ul style="list-style-type: none">① 09:30～10:45 「QUINT BRIDGE」にてワーケーション体験② 11:00～12:30 「QUINT BRIDGE」視察ツアー③ 12:30～13:30 昼食④ 14:00～16:00 「LINKS PARK」視察・デモンストレーション <p>■参加者 [敬称略] 6社(8名)</p> <ul style="list-style-type: none">・株式会社浜名湖国際頭脳センター・株式会社エル・ティー・エス・株式会社静岡情報処理センター・株式会社Newデイシス・株式会社静岡経済研究所・株式会社SBS情報システム <p>(アテンド：NTT西日本、静岡情報産業協会)</p>

3. 国内視察ツアーについて

(1) 全体所感

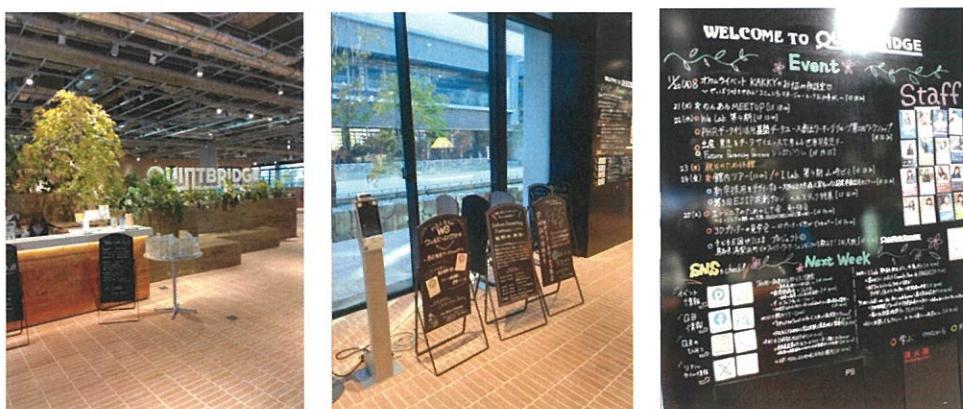
コロナ禍以前は、海外視察であった当協会の視察ツアーを、国内版に代えて企画された視察でした。奇しくも今年は阪神タイガースが優勝した年であり、大坂の街の活気を感じながら視察ツアーパートicipantすることができました。国内情報通信の基幹企業である NTT 西日本の最新施設を視察し、施設を利用・体験することができ、大変充実したものになりました。



(2) 「QuintBridge」 視察

NTT 西日本の本社施設でもある「QuintBridge」は元々大阪大学のキャンパスがあった場所で、企業・スタートアップ・自治体・大学等が「学び・繋がり・集う・共創する」場となることを目指し、事業共創と人材育成の支援の場として開設された施設ということです。

当施設の利用は会員登録すればほぼ誰でも利用ができ、また、利用料は無料ということ。スタートアップ等の支援も兼ねて、ビジネス共創空間というものを創り出すべく、色々なイベントや取り組みを打ち出していました。



☆QuintBridge エントランス／ウエルカムボード／イベント案内



☆QuintBridge 施設全体図／1F 新たな出会いフロア／3F 事業拡大フロア(協業企業エリア)



☆情報・意見交換会の様子

(3) 「LINKSPARK」 観察

「LINKSPARK」はJR大阪駅、梅田駅と直結の施設であるグランフロント大阪タワーの14階にあり、共創空間というよりは、NTTのDX事業における協業企業との推進拠点であると認識しました。DX事業について、生成AIや画像認識、データ分析といった技術を、実際のシステムに落とし込んだ形でディスプレイし、デモンストレーションすることによって体験でき、とても分かりやすく紹介されていました。

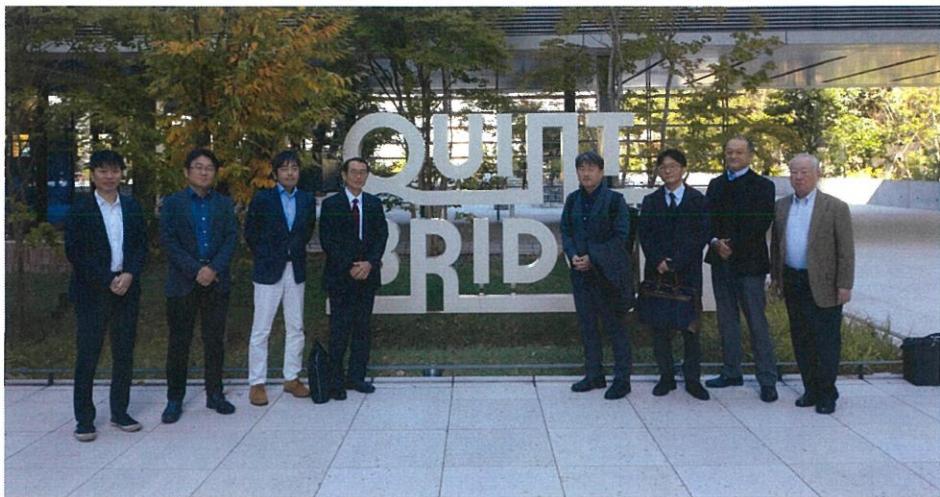


☆LINKSPARK エントランス/LINKSPARK デモンストレーションの様子①／②



☆LINKSPARK にて 集合写真

【まとめ】



☆QuintBridge にて 集合写真

この度は、静岡情報産業協会人材育成教育研修部会が企画した国内視察ツアーに参加することができ大変うれしく思います。会員企業の一員として、そして、当視察ツアーの団長（人材育成教育研修部会長）として参画をさせていただき、深く感謝申し上げます。

約1日半という短い期間でしたが、ビジネス共創推進事業の最新事例を視察させていただき、規模・資本の違いはあるにせよ、今後の静岡におけるお手本として、大変参考にさせていただくことができました。

今回のアテンドをしていただきました NTT 西日本の瀬戸様はじめ、静岡情報産業事務局様、参加企業の皆様、関係各所の皆様、あらためて心より御礼申し上げます。

以上

事業共創拠点（NTT西日本様）視察報告書

静岡情報処理センター 鈴木 裕

趣旨

- ・「静岡県情報処理産業協会 社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点」の視察を通じ協会の今後の活動の参考とする

視察概要（途中参加）

- ・日時：2023年11月22日（木）

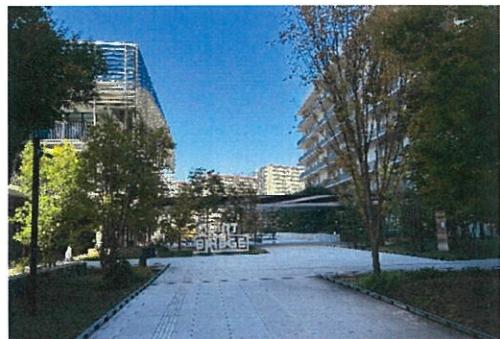
11:00～12:00 NTT西日本様のQUINT BRIDGE視察

14:30～16:30 同 LINK SPARK視察

- ・参加人数：全8名

QUINT BRIDGE

京橋の閑静なエリアでNTT西日本様本社と同じ敷地内に3F建ての新築棟として設立された。（写真の右手のビル）



1F 新たな出会いの場として

2F アイデアを実現する場として

3F 事業拡大フロア（社員及び会員入居者）



1F フロア





1 F 入口のボード



ディスカッションした内容のサンプル



2 F フロア

外壁に対し会議室等は斜め45度に配置、
フロア全体の様子がわかるように

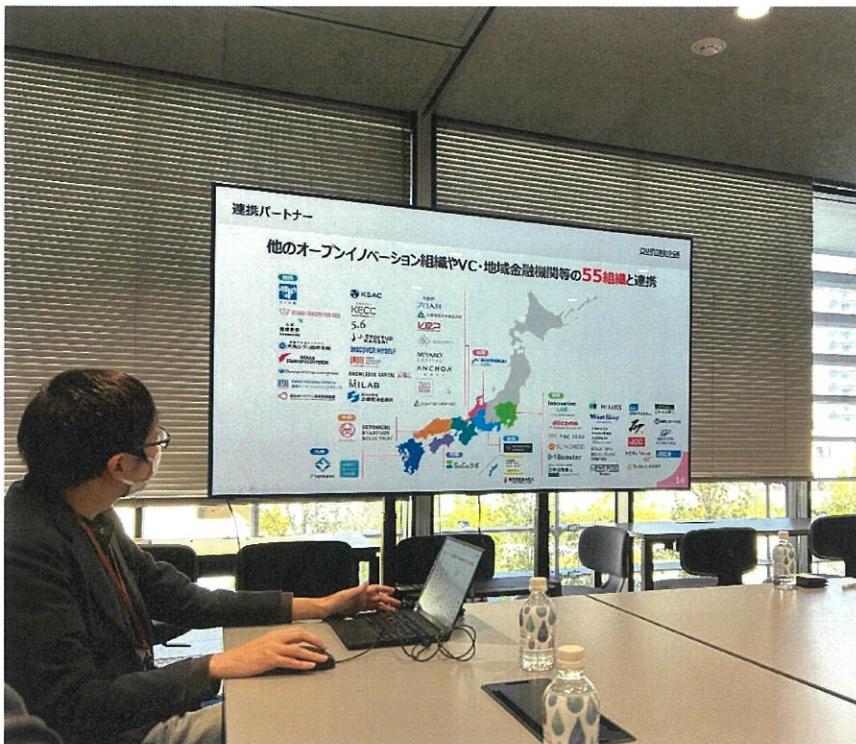
QUINT
BRIDGE
の理念
これを基にす
べての事業を
進めている

現在提供しているプログラムは 「学ぶ」「繋がる」「共創する」。

学ぶ : セミナー、ワークショップ、ゼミ

繋がる : 交流会、ピッチ大会

共創する : ビジネス共創ピッチプログラム、未来創造プログラム



現在 55 のパートナーと連携

共感いただいた方は、ぜひ会員登録を

●QUINTBRIDGEの会員には、QB共創パートナー(法人会員)とQBメンバー(個人会員)があります。
●法人会員は部署・研究室などの単位でお申し込みとなります。(5名1口として、2口以上のお申し込みが可能)

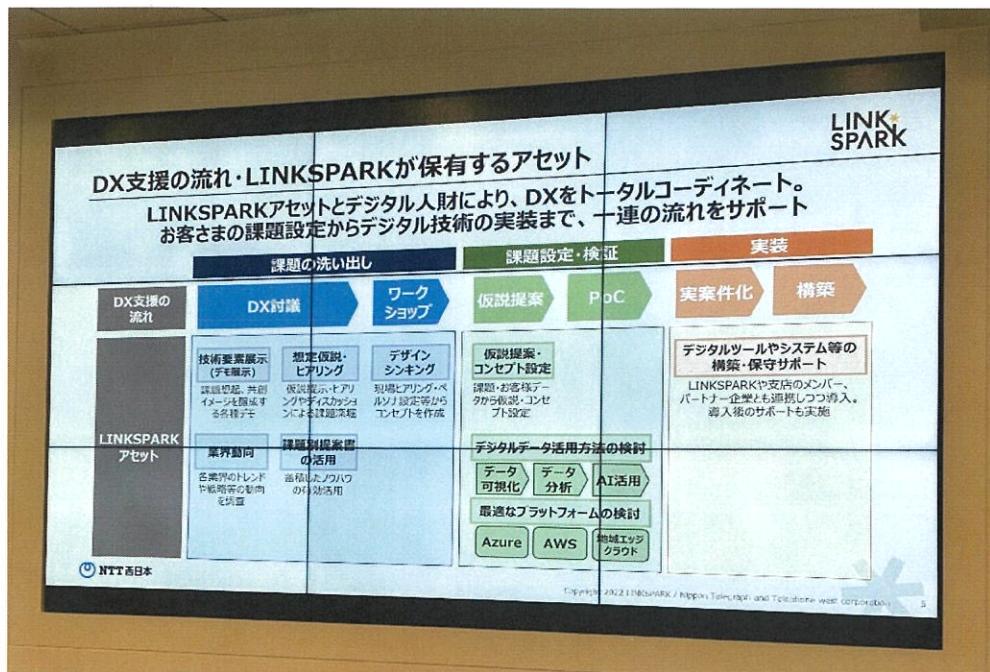
会員区分	法人会員 QB共創パートナー	個人会員 QBメンバー
対象	法人	個人
入会要件	共創に向けた問い合わせ・アセットの提示 (年1回の更新)	
1口あたり登録人数	5名	1名
施設利用時の同伴可能人数	会員1名につき、3名まで	
共創スペースの利用 ※1	1・2階	
公開イベントへの参加(セミナー、ワークショップ等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
イベントの主催・共催 ※2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
マッチング(個人会員間)	<input type="radio"/>	-
マッチング(法人会員間)	<input type="radio"/>	-
法人会員限定プログラムの参加	<input type="radio"/>	-
検証環境・FAB・配信ルームの利用 ※3	<input type="radio"/>	-
法人口コのWEBサイトへの掲載	<input type="radio"/>	-
入会金・年会費	無料	

※1 QUINTBRIDGE 3階は法人会員（入居企業）さまの占有エリアとなります。
※2 イベントの実施については利用目的等（共創に資する取り組みであること）について審査がございます。
※3 ご利用にあたりましては利用目的等（共創に資する取り組みであること）について審査がございます。

会員登録は
無料！

LINK SPARK

大阪繁華街 梅田グランフロント大阪タワーCにあるNTT西日本の共創空間
こちらもエントランスはオープンな雰囲気



お客様のDXを
支援



A I P O R T

何から手を付けていいかわからない方にAI要素技術を模したブロックの組み合わせによりAIサービス一例を体験



B I ツール

社内外のデータを可視化し新たに気付きに結び付けるために利用（広島カープを例に）



AzureOpenAIによるビジネス改革 ChatGPTを使った効率的な業務推進

・まとめ

QuintBridge では、NTT 西日本の方はもとより、参加されている方々が生き生きと活動されていました。その中では人との繋がり（手書きの案内板やイラストを使ったメモなど）を体験できるとともに、いろいろな方とのコミュニケーションが始まるきっかけもあり、絶えず工夫し進化していく協創の場ができているとわかりました。

会員登録も無料でこのような場を創りあげた NTT 西日本様の懐の深さに圧倒されました。

これも理念を確立し皆が同じ方向を向いて取組んでいるからこそであり、改めてぶれない理念・行動規範の大切さを感じました。

もっとも、今回アデンドして下さった NTT 西日本の浮田シニアマネージャーが言っていましたが、自ら積極的に参加する方々いかに維持・増加させるかが肝心であると思います。

LinkSpark はよりビジネスに特化し、お客様もしくはその先のお客様とのDX推進に向けた場であり、こちらの方が日頃の私たちからすれば馴染みのあるものだと感じました。説明して頂いたクラウドリソース部デジタルデバイス推進室櫛山課長、エンタープライズ推進部門デジタルデバイス担当藤本さんは、静岡とは縁があるとのことでしたので具体的な案件がある場合は、連携させてもらうこともあります。

静岡には県が提供している SHIP がありますので、そこを活用するのがいいのではと思います。

おわりに今回の視察にあたりご調整いただきました瀬戸部長（理事）はじめ、浮田シニアマネージャー、櫛山課長、藤本さん、NTT 西日本の皆様のご協力に、この場を借りて感謝申し上げます。
ありがとうございました。

以上

国内視察ツアー 社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点の視察

株式会社浜名湖国際頭脳センター
米良直樹

1. 目的

- NTT西日本が展開する「QUINTBRIDGE」「LINKSPARK」の視察
- 参加会員との交流



2. 視察概要

(1) 行程 :

令和5年11月21日（火）～22日（水）

- ① QUINTBRIDGEにて意見交換会
- ② QUINTBRIDGEにてワーケーション体験
- ③ QUINTBRIDGE視察ツアーハード面・ソフト面ともに展開されている施設です。
- ④ LINKSPARK視察ツアーハード面・ソフト面ともに展開されている施設です。



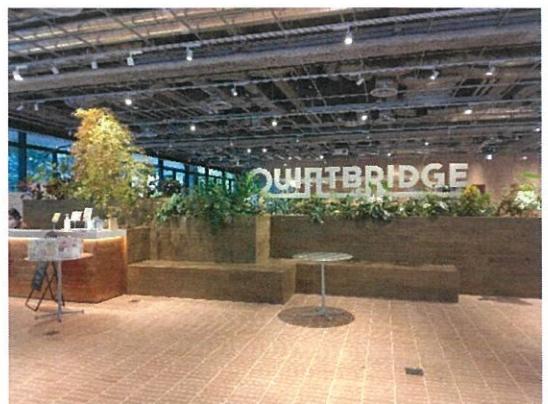
- (2) 参加人数：全8名

3. 視察先の概要

(1) QUINTBRIDGE（大阪府大阪市都島区）

「QUINTBRIDGE」は、NTT西日本が「共創」をテーマに立ち上げ、『Self-as-we～「わたし」の挑戦を、「わたしたち」の挑戦へ～』の理念のもと、ハード面・ソフト面とともに展開されている施設です。

本施設を中心としたNTT西日本の「共創」の特長の1つは「NTT西日本が中心にいないこと」だと感じました。NTT西日本は、あくまでも共創の場と機会を提供するメンバーの1つであり、主役は参加してくれる組織や個人。「この場から、いかに新しい取組みが生まれるか」が重要で、そのために必要なものが、ここには揃っているという印象でした。たとえば、建物のうち1階はイベントやカフェ、ワークショップなど「新しい出会い」を生み出す場、2階はプロジェクトやものづくり、配信スタジオなど「アイデア実現」、そして3階はスタートアップが入居できる「事業拡大」と、各フロアでステップアップできるように環境が準備されています。（各階のレイアウトなど新しいものを生み出すレイアウトなど、そこ



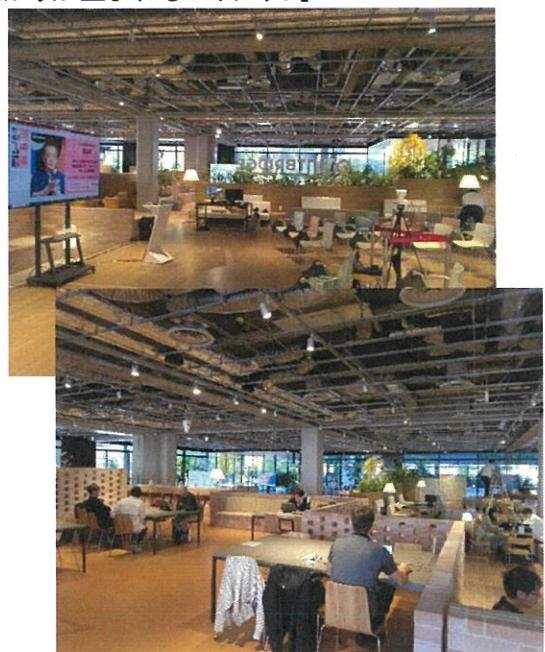
にいるだけでワクワクする工夫されていました。)

また、共創を進めたい方を支援するためのコミュニケータやプランナーなどのサポートスタッフが常に施設により、いつでも相談にのれる体制がとられていました。

NTT西日本のエリアが対象であり、大阪のみならず「ここに来たくなる」と感じさせ、多くの方が集まつくる施設であると感じました。

■ 1階

[高さや向きなどあえて揃えない、様々な発想や繋がりが生まれるレイアウト]



[手書きでのメッセージボード]

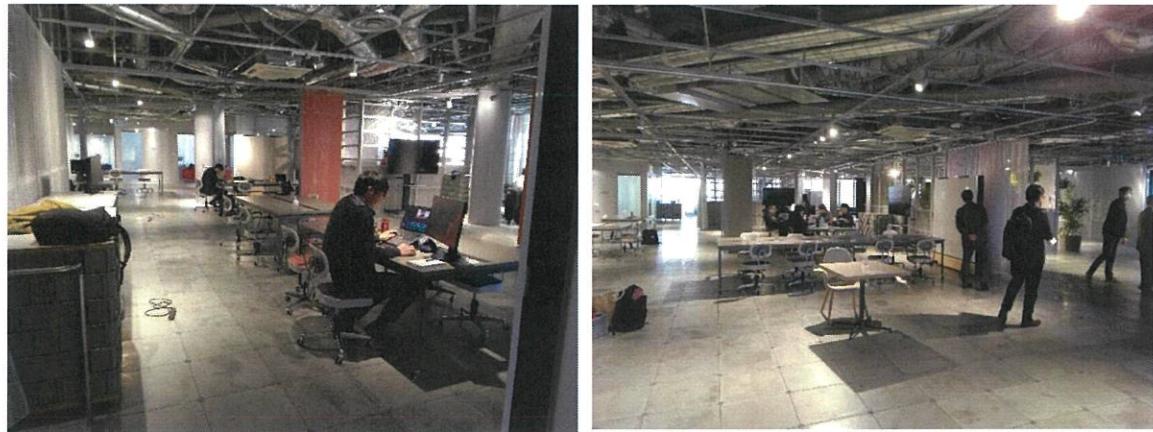


[カフェも常設]



■ 2階

[設備を45度の角度でレイアウトすることで、全体を見ることができるフロアに]



[3Dプリンタがある工作室や撮影配信用スタジオも整備]



[45度のレイアウトで余ったスペースはフリースペースに]



(2) LINKSPARK (大阪府大阪市北区)

「LINKSPARK」は、QUINTBRIDGEとはコンセプトが異なり、NTT西日本が提供されるサービスを紹介し、お客様のビジネスアイデアの創出から、活用技術の具体化・検証、実現までをサポートする場です。

視察では、全体説明とともに、2つ体験の機会も頂きました。1つは、AI (Artificial Intelligence) 活用です。施設に準備された設備を利用し、即時の翻訳を体験したり、カメラから感情を読み取り「楽しい」「悲しい」「怒っている」などが数値化される機能も体験しました。これらが簡単に体験できる環境を整えていることにNTT西日本の高度技術を感じました。

もう1つはBI (Business Intelligence) 活用です。事例として、プロ野球広島東洋カープが取り上げられ、過去5年程度の対戦相手やホーム・ビジターでの勝敗が可視化され、そこから必要なデータごとに画面を都度切り替えることができるなど、データの具体的な活用を実感することができました。



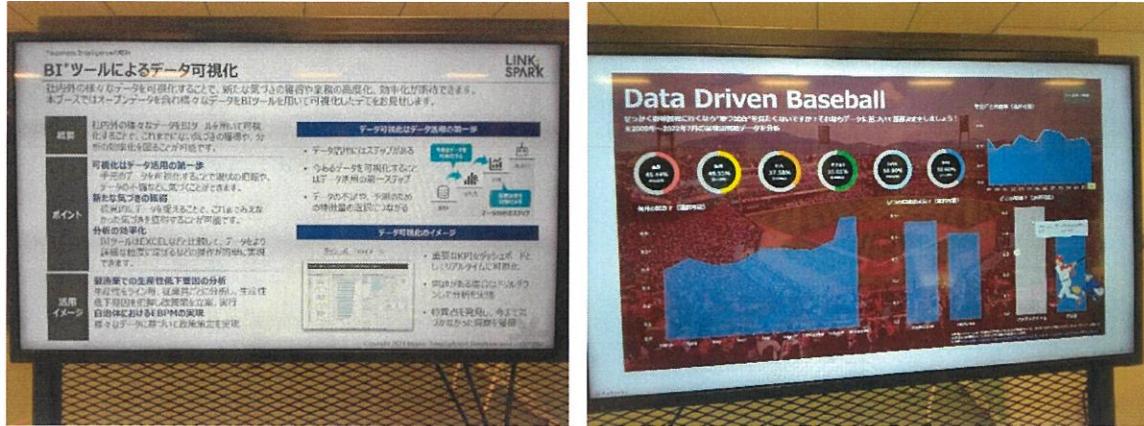
■AI活用

[台上のツールを動かすことで、瞬時にAIを使える。写真は英語・中国語への翻訳を行ったところ]



■BI活用

[広島カープの対戦成績やホームでの勝敗など必要なデータをワンクリックで切り替えられた]



3.まとめ

まず、本協会として数年ぶりに視察を行うことができたことは、とても良かったと思います。視察はNTT西日本・瀬戸理事、人材育成部会・花澤部会長の調整や準備のおかげで充実したものとなりました。ありがとうございました。「QUINTBRIDGE」「LINKSPARK」は、「DX」「共創」という今後求められるトレンドに対しNTT西日本様のコンセプトとこれからの取組みを知ることができ、たいへん刺激的なものでした。今回の視察を今後の協会での取組みの参考にするとともに、「QUINTBRIDGE」「LINKSPARK」との連携も検討していくと良いと感じています。ありがとうございました。

以上

株式会社 New デイシス
筒井將光

国内視察ツアー報告書

～社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点視察～

目的

- ・ICT 業界の最先端情報の収集
- ・NTT 西日本様の施設にてワーケーションを体験し、新たな働き方を知り考える機会を創出
- ・参加会員との交流

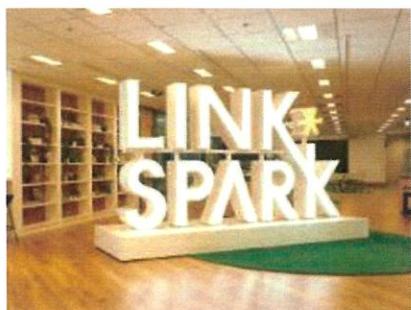
日程・参加人数

- ・2023 年 11 月 21 日
 - 16 時 00 分～ QUINTBRIDGE にて意見交換会
 - ・2023 年 11 月 22 日
 - 9 時 30 分～ QUINTBRIDGE にてワーケーション体験
 - 11 時 00 分～ QUINTBRIDGE 観察
 - 14 時 30 分～ LINK SPARK 観察
 - 16 時 00 分 解散
- ・参加人数 8 名

視察先施設の紹介



・QUINTBRIDGE (クイント ブリッジ)
大阪市京橋
NTT 西日本が運営するオープンイノベーション施設
1 階：壁の無いオープンな共創ワークスペース・イベントフロア
2 階：建物に対し 45 度に配置されたワークスペース
3 階：選ばれた共創企業と支援組織が入居するフロア



LINKSPARK (リンク スパーク)
大阪市梅田
NTT 西日本が新たなビジネスを実現していく共創空間企業や
自治体が抱える課題を解決し、DX の推進を支援する中核拠点
・先進技術の体験設備
・オープンなワークスペースとガラス張りのミーティングスペース

QUINTBRIDGE 観察

・意見交換会

3階ミーティングルームにて1日目参加メンバーが柔らかい雰囲気ながらも活発な意見交換がされました。

特に生成AIの現状や実業務での活用に関する会話が活発に行われ、インターネット検索の効率化に留まらず、資料作成の参考になる文書や画像の生成・キャッシュコピーのアイディアを考えもらうなど、業務の生産性向上に大きな貢献がされており、すでに無くてはならない状況にあることが共有されました。

・ワーケーション体験

QUINTBRIDGE会員の方々に混ざり、1階ワークスペースで各自が自社業務や協会に関する会話を行いました。広大なスペースで壁も無いのですが、絶妙に配置されたレイアウトにより、オープンスペースでも周囲を気にすることなく集中できるデザインと機能のセンスの良さを実体験し感動しました。



1階フロア中央付近から出入口への様子

・施設内説明会

2階ミーティングルームにて施設のコンセプトや利用状況の説明を受け、その後1階と2階館内を案内していただきました。館内はそれぞれのフロアの目的に合わせて社員の思いと専門家によって設計されており、広いフロアならではの贅沢かつ機能的な配置がされ、居て楽しい空間でした。

説明のなかで印象に残ったひとつ目は、QUINTBRIDGEでの活動が、NTT西日本の事業成果につながるケースがある・社員人材育成の課題解決にも繋がるということで、施設運営に対して会員は無料であること。

2つ目は会員がスタートアップ企業から中小大企業、大学、官公庁/自治体も大阪府内に留まらず、NTT西日本エリアの自治体も参加して課題テーマを持ち込んでおり、産官学がつながりやすい場の提供になっていること。そしてこれらがQUINTBRIDGEの理念である“Self-as-We「わたし」の挑戦を「わたしたち」の挑戦へ。”を実現し、目的である社会やそこに住む人・携わった人たちが幸せになることの実現に繋がっていくことに本気度を感じました。また、説明のなかではまだまだ多くの課題があることで、解決と進化を繰り返して更に成果を生み出していとのことで、もっと成長していくのだろうと思います。



1階フロアで説明を受けている1コマ

大きな壁は無いが段差を使ったスペース確保や
遠くが見える工夫がされています

LINKSPARK 観察

・活動説明

梅田エリア再開発事業で建設されたビルの 1~4 階に拠点を構えており、室内にある大型モニター 9 枚で構成されたディスプレイで説明をしていただきました。明るい木目とグリーンで統一されたリラックスできる空間です。

こちらでは DX の推進を支援する拠点となっており、IT 業界にいる身としてはとても興味をそそるワードが連発する説明内容でした。

生成 AI の活用についてははオープン AI 社の ChatGPT と同じモデルを使用しているマイクロソフト社と一緒に活動しており、サービス提供の仕方に工夫されていました。AI チャットを社内で活用したいが、個人に偏らず社員全員が社内業務で活用させたいという課題を持っている場合にはぴったりのサービスで、単に「チャット使ってください。」ではなく、各自治体や企業それぞれの社内業務に合わせた活用ができるサービス提供をされています。



集中して説明を受けている様子

・体験

AI、データの可視化、ChatGPT を実際に見ることができるブースを回りながら先進技術を勉強させていただきました。AI ブースでは AI 要素技術（物体検知・感情推定・音声認識等）を分かりやすく体験。データ可視化ブースでは BI ツールを用いて、可視化とその先の分析・予測・次のアクションに結び付けることがいかに有効であるか、マネジメント層には目からうろこを体験。3 つめの ChatGPT では活動説明のなかにもあった AI チャットの実体験ができるブースとなっており、NTT 西日本にてサービス化されている Azure Open AI を活用したサービスを体験できました。社内業務にて簡単に活用できるデモを体験させていただき、私たち業務のアシスタントとして AI チャットがすぐそばにいて、活用しない手はないということを体験させていただきました。



皆さんの今の感情がリアルタイムにグラフで表示

最後に

限られた時間と場所でしたが、街を歩いても大阪は元気でパワーのある場所でした。パワーのある街にはモチベーションの高い人多くの人が集まり、今回観察した QUINT BRIDGE にもそのような方々が集まっているのだろうと想像します。多くの人が集まり、その中のアクティブな会員に集中して支援するスタイルでうまく成果を出していく、街にあった運営をされているなど実感しました。私たちも静岡という街や人などを活動の要素として取り込んでいくと、より効果的に成果をだせる可能性があると勉強させていただきました。

以上

2023年12月6日

国内視察ツアー報告書

株式会社エル・ティー・エス
小林博典

NPO 法人静岡情報産業協会主催「社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点を視察」に参加させていただきましたので、以下のようにご報告いたします。

1. 視察ツアーの概要と目的

ICT 業界の最先端情報の収集を目的とした視察で、西日本電信電話株式会社（以下 NTT 西日本）の施設にてワーケーションを体験し、新たな働き方を知り考える機会とする。

2. 視察先の概要と特徴

（1）QUINTBRIDGE（大阪市京橋）

NTT 西日本本社敷地内に存在し、同社が運営するオープンイノベーション施設。新たな価値を、参加者と一緒に共創して生み出し社会課題の解決と未来社会の創造を成し遂げ、ウィルビーイングが実感できる社会実現することを目的としている。

（2）LINKSPARK（大阪市梅田）

新たなビジネスを実現していく共創空間として、地域の企業や自治体の DX を支援する拠点。先進技術に触れて経験します。

3. 参加者（順不同）

- ・株式会社浜名湖国際頭脳センター
- ・株式会社 S B S 情報システム
- ・一般財団法人静岡経済研究所
- ・株式会社静岡情報処理センター
- ・株式会社 New デイシス
- ・株式会社エル・ティー・エス

※アテンド：NTT 西日本、静岡情報産業協会

4. 観察ツアーについて

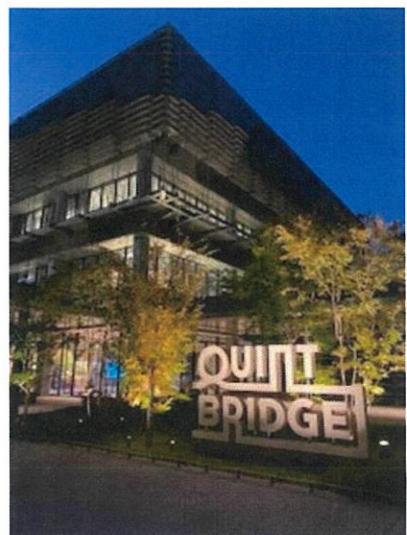
(1) 全体所感

ワーケーションの参加としては、本年の3月に開催されましたマウント里山で開催されましたワーケーションに続いての参加になります。前回はワーケーションが主体でありましたが、今回は国内のNTT西日本様の最新施設を観察し、利用・体験することができ大変充実したものになりました。また、弊社は静岡県及び広島県のオープンイノベーション施設の運営にかかわり私自身も利用をしたことがある立場としても貴重な観察となりました。

(2) 「QUINTBRIDGE」観察

大阪の京橋駅のほど近くにあるNTT西日本本社の敷地内に存在し、当初は研修センターとして使用される場所を広くオープンな場として提供し、社会課題を解決するための施設として開設されたとのことでした。利用者に制限はなく無料で使用できる施設として、観察をしたタイミングでも多くの利用者がいらっしゃいました。オープンイノベーション施設としてはかなり大きく、NTT西日本様のこの事業にかける熱意が伝わってきました。

もっともよいと感じたのは、NTT西日本様は場所の提供と仕組みやルールの提供が主体で、会員が主になって多くのイベントが開催されている自立した施設として稼働されている点です。これは、共創を目的とした施設として、会員が自分たちで行動し、創り上げていくコンセプトに合致しており、当初の期待通りの結果が出ているのがわかりました。



様々なイベントが利用者主催で毎日行われていること。手書きが温かい印象でした

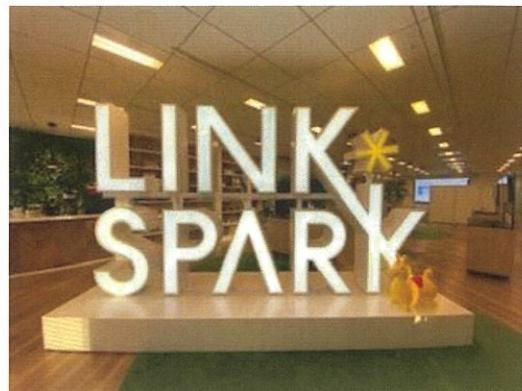


1階は壁がない設計でしたが、段差をつけることで、一つの空間にいる他の利用者が気にならない作りのこと

(3) 「LINKSPARK」 視察

JR 大阪駅との直結であるグランフロント大阪内に存在し、QUINTBRIDGE が個人やスタートアップなど、より小規模な会員を対象にしているのに対し、LINKSPARK はビジネスとしての色合いが強く企業の DX など変革の支援が主体になっている施設とのことでした。

LINKSPARK では、DX を推進するため AI Port のデモでは機能の組み合わせで様々なことが実現できるということがわかり、知らないことから新しいビジネスを創造することは難しいが、デモなどをすることで自社の問題を解決にする糸口とすることでできる画期的なデモであると感じました。



AI Port という DX を体験することができるツール。知っているようで知らなかった気づきがありました



BI ツールのデモ。野球の球団の勝率を様々な方法で分析しており、興味のあることから新しい発想につなげられる。



大阪以外にも 4 抱点あり、DX 支援を行われていました。

5. 学びと気づき

今回の施設は共創がテーマでした。静岡情報産業協会では現状の動きとして各部会が個別に動いており、会員企業も参加することも少ないため、会員企業が一緒になって共創していく文化が必要だと感じました。そのためには、現行の部会の在り方を3部会一緒になって考え、協会自らがDXを推進し、常に最新の動向に気を配り発信していく必要があるのでないかと考えます。

6. 今後の活動への提案

毎年最新の情報について会員企業や、地域の大学に紹介していくなど、世の中で当たり前になる前の新しいことを発信していく機会を作るのが良いのではないかと考えます。知らないことに対しては興味を持つことはできず、また、発想もできません。その活動を通して気づきを会員企業が一緒になって考えていくことで、情報技術を使ったイノベーションが起きるのではないかと考えます。

7. まとめ

静岡産業協会人材育成教育研修部会が企画した国内視察ツアーに参加し貴重な体験ができました。また、私自身、人材開拓推進部会メンバーとして他部会メンバーと交流の機会を持てたことに大変感謝しております。コロナ禍も終息してきた昨今、このようなイベントを通して交流を図ることで、静岡情報産業協会が活性化し、より一層の地域経済の発展と地域の活性化に寄与できるよう、これからも活動にも参加していきたいと思います。

この場を借りてアテンドをしていただきました、NTT西日本の瀬戸様をはじめ、企画してくださった人材育成研修部会の皆様、事務局長の桜井様、参加企業様に心よりお礼申し上げます。

以上



社会を変えたい思いと思いが、出会う場所。

『QUINTBRIDGE』 視察レポート

静岡経済研究所 中村

キーワードは“共創”

西日本電信電話㈱(以下、NTT西日本)が2022年3月24日に開設した大阪・京橋エリアのオープンイノベーション施設『QUINTBRIDGE』(大阪府大阪市都島区)。名称は、地名に因んで、quintillion(100京)とbridge(橋)を掛け合わせた造語である。

理念『Self-as-We～「わたし」の挑戦を「わたしたち」の挑戦へ～』のもと、下記5つのクレドを掲げ、多様な企業や人材がアセットや問い合わせを持ち寄って事業共創が推進される場所として、さまざまな創意工夫がみられる。なお、設立にあたって、『SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)』(東京都渋谷区)や『CIC Tokyo』(東京都港区)などのインキュベーション施設等を参考にした模様。

- ワクワク・居心地のいい場所にしよう。
きっとおもしろい人に出会える。
- 自分の思いをシェアしよう。
個性が自然と発揮されるはず。
- 社会課題を持ち寄ろう。
そこに問い合わせと共感が生まれる。
- ともに動き出そう。
共創アイデアが形になっていく。
- 世の中に新たな価値を提案しよう。
「わたしたち」で社会を前進させよう。

細部までこだわったゾーニング

まず、施設は地上3階建てで、延べ床面積は約4,000m²に及ぶ。1階が『新たな出会いフロア』となっており、100人収容の大空間に加えて、カフェやワークショップスペース等がある。ここでは、自然な出会いを生み出すため、壁を取り払うことでクローズドな空間をなくしたり、レンガ素材を用いてアースカラーで統一したり、各所に段差を設けたりすることで、居心地の良い空間づくりを徹底していた(写真1)。また、ウェルカムボードやイベントスケジュールなどはすべて手書きのポップアップで随時更新しているほか(写真2)、電話帳やLANケーブルをアップサイクルした机や照明など、個性的な装飾が目立った(写真3)。



▲写真1 1階『新たな出会いフロア』

2階は『アイデア実現フロア』に位置づけられ、会員であれば無償で3Dプリンタが使用できるモノづくりスペースや撮影配信スタジオ、オープンキッチン等を設けている(写真4)。間仕切りを四方の壁に対してすべて45度とすることで、ジグザグに歩かせる演出で周囲に目が向く空間を創出していた。なお、利用効率が下がりやすいフロアの四隅には、畳を敷き詰めた“縁側”を設置しており、ワーキングスペースなどとして利用されていた(写真5)。

3階は入居者専用の『事業拡大フロア』であり、スタートアップと会員を支える支援組織のオフィスが入居している。

このように、アイデアをかたちにしていくフェーズは、1階から3階にかけて描かれている。また、NTT西日本の従業員がコミュニケーターとして常駐するほか、一風変わったキャリアのスタッフも在籍しており、会員活動をサポートしている。

多彩な仕掛けで、開設1年半余で急成長

次に、活動内容をみると、ピッチやセミナー、ワークショップ、交流会等のイベントを施設開設から18カ月で591回開催しており、延べ利用者数は11万人を突破した。営業時間は平日9~21時と土曜日13~18時



▲写真2 手書きのポップアップ

であり、直近3カ月は毎日300名超が来館している。

イベント一例を挙げると、LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用したワークショップ『未来からはじめるマイストーリー』では、個人の価値観や会社のビジョンの個々の解釈を、レゴ®ブロックを用いてかたちづくることで、自己開示が得意ではない参加者の声を引き出したり、個人の考えの背景にあるストーリーを呼び起こしたりするきっかけづくりとした。そして、その後に名刺交換を行う機会を設けることで、1歩踏み込んだ相互理解を伴った新しい出会いを実現した。

QUINTBRIDGEでのイベントは“共創・オープン・無料”であれば、会員の誰もが主催でき、累計591回のおよそ7割が会員による企画であった。現在は、毎日5、6件のイベントを開催している。

また、事業共創を加速させるため、“学ぶ”“繋がる”“共創する”的3つの軸でプログラムを実施している。

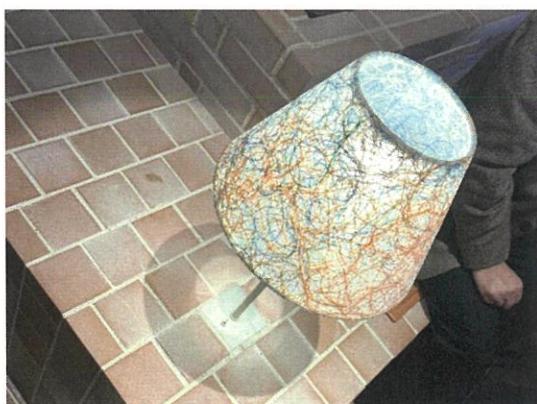
“学ぶ”では、教えあい・学びあい・切磋琢磨で成長する『UP↑UP↑Program』と銘打って、ビジネスを創造し研ぎ澄ます『I LAB.』と、教えあい、学びあう会員同士の学びのコ



ミニユティ『WE LAB.』を企画している。『WE LAB.』は、参加メンバーに向けて、事業内容および自己紹介ピッチが可能な法人/個人をメンバー要件とするが、現在、メンバー数は140名まで拡大した。

“繋がる”では、世の中のトレンドや注目されている分野で輝きを放つスタートアップ企業が集結するピッチプログラム『Shining Startup』を展開する。生成AI特集では約600名を集めるなど、「スタートピッチイベントの集客力は西日本No.1」(浮田氏)と自信をみせる。

そして、“共創する”では、『Business Match-up!』というコンセプトのもと、NTT西日本のアセットとスタートアップのプロダクトや技術を掛け合わせた共創を推進している。電柱等の点検用車両から取得した街中の膨大な画像データをはじめ、大手インフラである同社ならではのアセットに、API連携などを通じて、外部の視点やアイデアを取り入れることで、社内だけでは創造できない新たな活用方法を模索、実現している。加えて、未来共創プログラム『Future-Build』と題して、特定のテーマで、6ヶ月間という短期集中で未来の事業を共創するパートナーを募集、採択もしている。



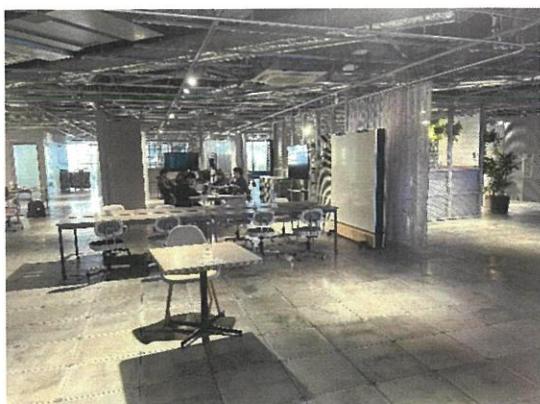
▲写真3 アップサイクルされた照明

このように、NTT西日本や会員自らによる多彩な仕掛けによって、多様なプレイヤーが出会い、幅広い分野で共創が促進されている。『Business Match-up!』プログラムでは、既に具体的に進行するプロジェクトも複数あり、社会実装に期待がかかる。

NTT西日本による高貴なる運営

驚くことに、QB共創パートナー(法人会員)、QBメンバー(個人会員)ともに、入会金や年会費は無料である。「運営コストを賄うため、当初は、段階的に会費を徴収することも検討していた」(浮田氏)というが、ヒトと情報が集まるエコシステムを形成するという命題と、NTT西日本が享受できる恩恵を鑑みて、無料を継続することに方針転換した。

NTT西日本にとっての恩恵とは、①共創の成果、②人材育成、③ブランド価値の向上が挙げられる。なかでも、②人材育成は、従業員を内向き志向から脱却させるべく、他流試合の機会拡大を図ろうとしていた経営陣の思惑に合致したものである。QUINTBRIDGE がもともと同社の新研修生棟であった経緯も踏まえて、同社では、従業員のイベント等への参加数を指標に据えて、外向き志向の人材育成の一環としてコスト



▲写真4 2階『アイデア実現フロア』

負担している。そして、③ブランド価値の向上は、旧来のインフラ会社としてのイメージの刷新を期待するものである。一朝一夕には実現し得ないが、これまでに1,500以上のメディアで取り上げ実績があり、認知度は高まっている。ただし、「過大評価も過小評価もしないようにする」(浮田氏)と冷静に受け止めている。

Q B 共創パートナー（法人会員）は1,041組織で、企業、スタートアップ、大学、自治体など、NTT西日本の管轄である静岡県から沖縄県までの西日本各地および首都圏から多様な組織が集う。メインはスタートアップである。大阪のスタートアップは、企業数が東京の1割程度とされるが、法人会員全体の64%を占めている。実態としては、革新的な新たなビジネスモデルに取り組むスタートアップ会員は150社程度であり、大半が地場でスマールビジネスに取り組む企業である模様。Q B メンバー（個人会員）は14,380名で、10代の高校生起業家から80代まで幅広く参画している。なお、連携パートナーは、他のオープンイノベーション組織やVC、地域金融機関等の55組織に及ぶ。

法人会員・個人会員ともに、無料のため入



▲写真5 デッドスペースを活用した縁側

会しやすく着実に拡大しているが、NTT西日本では、会員数自体の増加に向けた取り組みは行っていない。「アクティブユーザー以外は健全に離脱していくことで、筋肉質な集まりを形成していく」(浮田氏)ことが目標で、コワーキングスペースとして利用するフリーライダーなどは歓迎していない。

今後は“1歩を踏み出す”後押しを構想

現在の課題としては、“偶発的な出会い”が少ないことを挙げる。毎日5、6件開催されるイベントおよびその後の交流会も踏まえると、会遇の機会は少なくない。一方で、空間づくりだけでは、恒常的に、偶発的な出会いを実現することが難しい。そこで、今後は、常駐のコミュニケーターが来訪者に声をかけ、インタビューや自己PRの場を設けるなど、「1歩を踏み出すきっかけづくりをしていきたい」(浮田氏)と構想する。そして、出会いの広がりによって、『社会課題の解決と未来社会の創造を成し遂げ、ウェルビーイングが実感できる社会を実現する』ための共創プロジェクトの拡大を図ろうとしている。

静岡県内をみると、デジタル人材の育成



▲プレゼンターのNTT西日本 浮田昭夫 氏

とイノベーション創出のための拠点『S H I P』(SHizuoka Innovation Platform) が 2023 年 3 月 9 日にオープンした。施設規模は小さいが、官民連携のもと、研修会や講演会、ワークショップ等のイベント開催が活性化している。会員は個人のみで 1,400 名超まで広がり、世代を超えた交流や異業種間の交流機会も少なくない。S H I P では、コミュニティマネージャーが会員の属性を把握することで、イベントがない時も、積極的に来訪者同士をつなげている。そのため、“もしかしたら”を期待して訪れる交流・情報収集の場となる。なお、12 月 1 日より、営業日時を平日 10~18 時から 12~20 時へ変更し、退社後にラフッと立ち寄る会員の増加を見込んでいる。

S H I P が発展する一方で、自由度が高くマンパワーもある民間事業者主体の拠点開設も期待したい。2020 年 6 月に浜松いわた信用金庫が立ち上げたイノベーションハブ拠点『F U S E』が一定の賑わいをみせるが、県の中心である静岡市でも、より大きなムーヴメントを起こしたい。

たとえば、静岡銀行が本部タワー内または併設で、空間づくりからこだわったオープンイノベーション施設を設立してはどうだろうか。N T T 西日本のように、①共創の成果、②人材育成、③ブランド価値の向上という恩恵が見込まれる。特に、『未来へつなぐ新たな価値を創造する課題解決型企業グループ』をビジョンに掲げる同行にとって、人材育成面におけるカンフル剤となり得る。加えて、同行はベンチャーディットをはじめとしたスタートアップへの資金援助(融資/出資)に注力しており、コアビジネスの伸長にも直結する取り組みとなろう。

やはり、革新的な新たなビジネスモデルに取り組むスタートアップは大都市圏に集中する傾向が極めて強い。しかし、情報と人材の価値を十分に理解する県内リーディングカンパニーが、地元企業や産業の課題や問い合わせを集積し、公的機関等と連携してフィールドを提供、可能ならば自らのアセットも供与することで、多種多様な企業やヒトを静岡に呼び込み、“静岡県発”的イノベーションの創出が推進されることを切望する。



▲「S I I A 国内視察ツアー」参加者一同 (Q U I N T B R I D G E 前)



地域密着型のDX推進ハブ

NTT西日本が顧客と共に考え実行し、新たなビジネスを実現していく共創空間『LINKSPARK』。現在、大阪・名古屋・福岡・広島と全国に4拠点を有し、開設から約3年半で950件超のDX案件を創出している。なお、2019年8月に初めて設立されたのが『LINKSPARK OSAKA』(大阪府大阪市北区)である。機能面において他拠点と差異はないが、企業や自治体が抱える課題を解決し、DXの推進を支援する中核拠点として、数多の案件をサポートしており、「やっと具体的な成果も出てきた」(櫛山氏)という。

最新IT×DX人材で充実したサポート

DX支援のフローを概観すると、まず、デ



▲写真6 デモ展示

ィスカッションやワークショップで“課題の洗い出し”を行う。次に、“課題設定・検証”へ移行し、仮設提案やPoC(概念実証)を繰り返す。最後に、実案件化や構築といった“実装”を実現する。LINKSPARKは巨大資本ならではのアセットとデジタル人材によってDXをトータルコーディネート、一連の流れをワンストップでサポートする。

たとえば、最新の技術要素をデモ展示し(写真6)、企業や自治体に体験してもらうことで、アイデア想起を誘発する。特に、LINKSPARK OSAKAには、2023年5月からN



▲写真7 『AI Port』のデモ

NTT西日本が協業する日本マイクロソフト株の最先端技術に触れられる『Microsoft Base Osaka-Umeda』が設置されている。

また、慶應義塾大学へ派遣して専門家に育成した従業員がデザインシンキングを実践することで、顧客の本音を引き出し、本質的な課題を炙り出す。ほかに、データサイエンティストなども複数名擁しており、「人員は豊富」(櫛山氏)と、サポート体制において質と量の両面で不安はない。

次代を切り拓く生成AIサービスに注力

デモ展示を具体的にみると、現在のメガトレンドである生成AIサービスが目立つ。生成AIのメリットとしては、何度もやり取りが可能な相談役になり得ることや、従業員が能動的に効率化を図れるためIT部門の負担が軽減されることなどが挙げられる。

まず、『AI Port』は、INPUT(入力)・PROCESSING(中間処理)・OUTPUT(出力)のブロックを組み合わせることによって、カメラとマイクで捉えた映像や音声から、①物体検知、②動画物体検知、③感情推定、④音声認識、⑤文書翻訳、⑥雑談といったサー



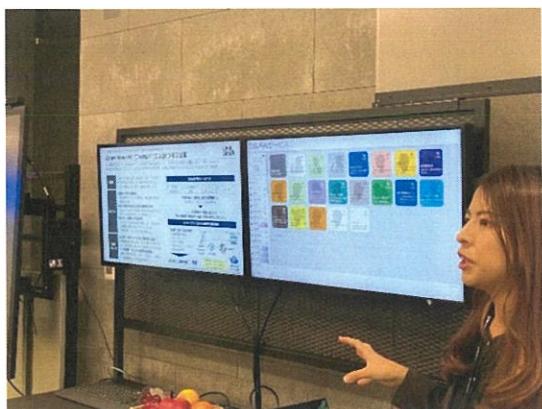
▲写真8 『BIツール』のデモ

ビスを体感でき(写真7)、思わずさまざまな場面で活用できなかと考えを巡らすことになる。

次に、『BI(business intelligence)ツール』は、さまざまなデータを可視化することで、新たな気付きや業務の高度化・効率化につなげるソフトウェアである。LINKSPARKでは、プロ野球チームの勝率等について、その場で細かく条件設定をして分析したデータがグラフ化されるため(写真8)、数字に基づいた納得した判断を実感することができる。

そして、『Azure OpenAI(ChatGPT)』は、Microsoft AzureでOpenAIのChatGPTを利用できるが、NTT西日本がユースケースに応じた独自のパッケージサービスを構築している。要約や添削、メール文の作成、アンケートの作成、ネーミングの考案、ディベートの実施、想定質問の作成など、用途に応じた多彩なテンプレートを整理しております(写真9)、ユーザーはプロンプトを入力する必要がないため、誰でも簡単かつ適切にAzure OpenAIを活用できるようになっている。このテキスト生成AIサービスは、初期

プレゼンターのNTT西日本 藤本明奈 氏▼



▲写真9 『Azure OpenAI』のデモ

費用 75,900 円・基本料金 33,000 円・ユーザー料金 990 円 / ID (最低利用者数: 20 ユーザー) で 10 月 1 日から提供を開始し、成約第 1 号は静岡県内の顧客であったという。

N T T 西日本のグローバルなビジネス

LINKSPARK での DX 支援は相談段階から有償となるが、顧客の中には、「そもそも課題って何だっけ?」と漠然と困っている中小企業も多く、専門家がしっかり対話して、個社別に課題の深堀りから寄り添うことは、市場ニーズにマッチしたビジネスとなり、新規顧客やリピーターが増えている。「大手コンサルティング会社の半値以下」(櫛山氏)であることも一因であろう。

このように、デモ展示によるアイデア想起から、対話によるテーマ設定、専門家の支援に基づいたデザインシンキング、アイデアの具現化、サービス導入の実証実験まで、顧客の課題解決に向けてワンストップでフォローアップする LINKSPARK。N T T 西日本は、コンサルティングサービスを拡大することで、地域社会のグローバルな発展に寄与していく方針である。

静岡県内を見渡すと、ハード面とソフト面の双方で、LINKSPARK に肩を並べるような拠点は見当たらない。そのため、スタートからゴールまで圧倒的な伴走支援を要望する県内企業や自治体は、LINKSPARK を活用してみることが一手となろう。オンライン相談も可能で、「利用料金等含め、詳細は N T T 西日本にお問い合わせください」(櫛山氏)のこと。

もちろん、『LINKSPARK SHIZUOKA』の開設を熱望するが、県内事業者にも似たようなビジネス空間を展開することを提案してみたい。実態として、案件相談の初動を無償で請け負っている県内事業者は少なくないとみられる。そこで、要件定義・要求分析またはその前段階から実装までを役務として提供することを謳った事業拠点を設けることで、収益性が担保されたビジネスモデルを確立してほしい。人材の確保が最大のネックとなることは明白だが、自社と顧客の持続的な成長を実現する I T 事業者へと変革するべく、大胆なチャレンジを期待したい。



▲「S I I A 国内視察ツアー」参加者一同 (L I N K S P A R K O S A K A 内)

～社会実装型オープンイノベーションによる事業共創推進拠点を視察～
「SIIA国内視察ツアー」概要

＜主催＞

NPO法人 静岡情報産業協会（SIIA） 担当：人材育成・教育研修部会

＜日程＞

2023年11月22日(水)

＜視察先＞

■ QUINTBRIDGE（大阪市京橋）

NTT西日本が運営するオープンイノベーション施設（NTT西日本の本社）

●イノベーション戦略室 事業開発担当シニアマネージャー 浮田 昭夫 氏

■ LINKSPARK（大阪市梅田）

NTT西日本が運営する顧客のDXを加速させる共創ラボ

●クラウドソリューション部 デジタルデータビジネス推進室 担当課長 櫛山 和也 氏

●エンタープライズビジネス部 エンタープライズビジネス推進部門 デジタルデータビジネス担当 藤本 明奈 氏

＜参加者＞（）内はSIIAの役職

●花澤 真平 氏（育成部会長）

株SBS情報システム 営業本部ソリューション営業部 エキスパート

●瀬戸 伸亮 氏（理事）

西日本電信電話株 静岡支店 ビジネス営業部長

●米良 直樹 氏（理事/育成）

株浜名湖国際頭脳センター IT事業部 次長

●筒井 将光 氏（育成）

株NEWデイシス 情報システム第1統括部 新領域推進部 部長（兼）情報活用推進部 部長

●小林 博典 氏（開拓副部会長）

株エル・ティー・エス ICTエンジニアリング本部 ITSM Outsourcing事業部 マネージャー

●桜井 俊秀 氏（事務局長）

株富士フォーチュン 代表取締役

●鈴木 裕 氏（副理事長）

株静岡情報処理センター 代表取締役社長

●中村 建太

（一財）静岡経済研究所 研究員

以上

「国内視察」所見

西日本電信電話株式会社 静岡支店 瀬戸 伸亮
(NPO 法人静岡情報産業協会 理事)

令和5年度の国内視察として、NTT 西井本の事業共創推進拠点を視察いただき、ありがとうございました。今回は、「Quintbridge」と「Linkspark」という2つの施設を視察いただきましたが、ともに“共創”というキーワードで、会員様やお客様と“とも”にイノベーションやDXを推進するための共創空間として運営しています。

それぞれの施設の特徴を踏まえ、改めて各施設の概要等を記載します。

- ・ 「QuintBridge」は、オープンイノベーションの推進に力を入れている施設であり、会員登録すれば無料で利用できるという点が魅力です。施設内には、様々な業種・業界の企業やスタートアップ、自治体、大学などが集まり、情報交換や各種イベントの開催・参加等をきっかけに、自由な発想で共創を行っています。

理念として「Self-as-We」を掲げ、NTT 西日本が中心にいるのではなく、会員の皆様とともにイノベーションを生み出していくことができる空間をめざして運営しています。

視察ツアーでは、施設全体の見学や意見交換会、1階スペースでのリモートワーク体験などを通じて、その雰囲気や活動内容を実感いただけたのではないかと思います。

- ・ 「LINKSPARK」は、NTT 西日本の DX 事業の中核拠点であり、協業企業様と“共に考え共に創る”空間として運営しています。施設内には、生成 AI や画像認識、データ分析などの技術を活用したシステムやソリューションが展示されており、デモンストレーションを通じて、その機能や効果を体験いただくことができます。

視察ツアーでは、物体検知・感情推定・音声認識・翻訳を組み合わせたシステムや、データ分析ツール、生成 AI の活用体験等を通じて、DX 推進に向けた具体的な活用イメージを実感いただけたのではないかと思います。

視察ツアー参加者の皆様は、NTT 西日本のオープンイノベーション施設や DX 事業に対して、興味や関心を持っていただくきっかけとなったのではないか、と思います。また、本ツアーを通じて、NTT 西日本との連携や協業の可能性についてもご検討いただけたら幸いです。

視察ツアーにご参加いただき、ありがとうございました。静岡情報産業協会の活動においても両施設をご活用いただき、本協会の活動の更なる活性化に貢献できればと思っております。今後とも、よろしくお願ひいたします。